令和２年度　大阪府豊能保健医療協議会　議事概要

■開催日時：令和３年２月４日（木）午後２時から午後３時45分

■開催場所：大阪府池田保健所　２階大会議室

■出席委員：26名

（塩川委員、飯尾委員、井上委員、川西委員、中委員、真鍋委員、清水委員、疋田委員、

土居委員、芦田委員、中村委員、立木委員、林委員、土岐委員、今井委員、矢野委員、

藤原委員、長濱委員、西岡委員、笹野委員、高井委員、山本委員、杉本委員、渡邉委員、

藤田委員、桑原委員）

■議題１　令和元年度各懇話会活動報告について

　資料に基づき、吹田市保健所から説明

【資料１】令和２年度　大阪府豊能地域救急メディカルコントロール協議会（概要）

■議題２　令和２年度地域医療構想の進捗状況について

　資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

　【資料２】令和２年度地域医療構想の取組と進捗状況

■議題３　基準病床数の見直しの検討について

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

　【資料３】令和２年度基準病床数の見直しの検討について

■議題４　豊能二次医療圏における地域医療構想の進捗状況について

　資料に基づき、池田保健所、大阪市立弘済院附属病院から説明

　【資料４】令和２年度豊能二次医療圏における地域医療構想の進捗状況

■議題５　豊能二次医療圏における各病院の今後の方向性について

　資料に基づき、池田保健所から説明

　【資料５】2025年に向けた各病院の将来プラン

　【資料６】非稼働病床の現況（病院・有床診療所）

　【資料７】豊能医療・病床懇話会結果の概要

質疑応答の後、議題５について、過剰病床への転換等も含め各医療機関からの病院プランについて、承認された。

（議題１から５に対する主な意見・質問等）

（質問）

〇　議題１で救急懇話会の活動報告があったが、その懇話会の中で、豊能圏域での搬送困難事例が急増しているというデータが急遽提示されたが、これに関する話し合いがその時不十分であった。原因の分析や対策などが話し合われないまま進められているように見受けられるが、如何。

（大阪府からの回答）

〇　新型コロナの医療体制と、救急医療体制等の通常医療とのバランスについては、地域の御意見や医療事情の実態を見極めつつ、適宜方向性をお示しさせていただきたいと考えている。

　　また、今後の医療体制の議論についても、本来であれば地域の実態のデータをお示ししたうえで議論いただく予定だったが、次年度以降はデータをお示ししながら病院連絡会等で議論いただきたいと考えている。

（質問）

〇　当院は豊能二次医療圏で救急を受けている病院で、新型コロナの疑似症患者も多数受け入れているが、昨年11月頃からフォローアップセンター経由での陽性患者の転送ができなくなっており、１月に入ってからは重症患者は挿管しないと転送してもらえなくなった。その結果、一般病床で新型コロナ患者を診ている状況となっている。

　　今回、民間病院にも大阪府から受け入れ要請があり、「病病連携」が全く機能していないという現状である。大阪府として、本当に全体を見ながら受け入れ要請を行っているのか、というのが現場の思いであり、全体を俯瞰しつつコントロールしていかないと、地域医療構想でここまで機能分化して作り上げてきたものが全く機能しないことになる。このような会議で機能するような話合いをしていただきたいと思っているが、大阪府の意見としては如何。

（大阪府からの回答）

〇　後方病院等の新型コロナ病床の対応については、現在庁内でも議論しているところであり、後方病院の受け入れ先がなくて困っているという話も聞いている。後方病院の支援策について、現在取りまとめ等を行っているところであり、適宜必要に応じて受け入れ病院にフィードバックさせていただきたいと考えている。

（意見）

〇　豊能圏域では、重症病床は割と何とか回っているが、中等症病床で非常に困っているがなかなか調整できずに困っていると聞いている。

〇　当院では軽症中等症を受け入れているが、現在100％近い病床稼働率で大変な状況のなか、発熱患者が夜間に受診しても受け入れてくれないところがある。救急が民間病院に回っているのではないかと思う。

〇　発熱患者が受診した場合、個室が必要になるが、現状は個室がもうないため、４床部屋を一つの個室として使用しているような状況であり、病床をどのように運用するかが喫緊の課題と認識している。緊急事態宣言の発出等で発症者のピークは過ぎたようだが、重症者のピークはまだ続いている状況であり、あと数週間は続くと思われる。その間も発熱患者の個室対応が増加していくため、結果として病室はあるが、個室対応が難しいので受け入れられないのが現状である。

〇　診療所でのケースでは、陽性患者が出て、入退院フォローアップセンターに連絡しても３

～４時間は連絡がなく、その間患者をどうするかということになって困っていると聞く。

■議題６　地域医療への協力に関する意向書の提出状況について

　資料に基づき池田保健所から説明

　【資料８】地域医療への協力に関する意向書提出状況（診療所新規開設者）

　【資料９】地域医療への協力に関する意向書提出状況（医療機器新規購入・更新者）

■議題７　豊能二次医療圏における第７次医療計画の取組状況の評価について

　資料に基づき池田保健所から説明

　【資料10】第７次大阪府医療計画ＰＤＣＡ進捗管理票

■議題８　地域医療支援病院の承認について

　資料に基づき市立吹田市民病院から説明

【資料11】地域医療支援病院の名称承認申請について

　質疑応答の後、議題８について承認の同意を得た。

（議題６から８に対する主な意見・質問等）

　意見・質問等なし

■議題９　その他

　（１）新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の医療提供体制について

　　　資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

【参考資料６】新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた今後の医療提供体制の構築に

向けた考え方

　（２）二次救急告示病院の更新について

　　　資料に基づき池田保健所から説明

　【参考資料７】令和２年度豊能圏域救急告示医療機関認定結果

（主な意見・質問等）

（質問）

〇　先ほどの大阪市立弘済院附属病院の移転について、資料７の１にあるように、豊能医療圏から病床が減少することについては、今後も引き続き検討がなされていくということでいいか。

（大阪府からの回答）

〇　弘済院附属病院の移転については、今後は医療審議会で再編計画（案）の承認に向けて議論を進めていく予定。豊能圏域で病床が必要かどうかという議論については、本日の議題の中の基準病床の見直しの検討の中で行っていく予定。

（意見）

〇　特措法が改正されたが、病院に対する患者の受け入れ要請について、病院にもいろいろと事情があり、受け入れがなかなか難しいケースもある。その場合、病院名を公表する、といったことが一時言われていたかと思う。

　　病院名の公表については法的にできるとはいえ、それぞれの病院の事情もあり、出来る範囲も限られると思うので、公表というのは最終的な手段として、慎重にしていただきたい。

〇　豊能二次医療圏には大阪大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターがある。この２病院の病床も含めた数字で、豊能圏域の高度急性期病床は足りていると判断されると、現場は非常に困る。実際には急性期病床が足りないというのが現場の認識である。

〇　ワクチン接種について、どの地域も医療リソースが不足しているという状況なので、リソース確保がまず必要だと認識している。